

乳幼児を育てる母親の学習行動に周囲の協力関係が及ぼす影響

田井 優子
(筑波大学大学院)

【要旨】

本論文では、乳幼児を育てる母親（以下、母親）の学習行動に周囲の協力関係が及ぼす影響の一端を解明した。ここでいう協力は、①母親の学習に対する肯定的な意識、②「母親が学習するために何らかの協力を必要としている」ということがらを知っていること、③母親が学習するために必要な協力が実際に行われていることである。また、周囲はこのような協力をを行う主体であり、「父親」「家族・親族」「友人・知人」「その他の援助者」「社会」の5種類を取り上げた。分析の結果、上記①～③の協力をすべて行う主体の種類数が1以下に比べて2以上では母親の学習活動率が高く、半数を超える。本論文ではこのような結果から、母親の学習活動の有無には周囲の肯定的な意識を伴う、母親が必要とする協力行動をとる主体の種類数が影響を及ぼしているという仮説を提出した。

1. 本論文の目的

現在、わが国では次世代を育成するための社会的支援の重要性が指摘されており¹⁾、各地でさまざまな事業が実施されている。そのような社会的支援に関する基礎的な理論研究には、子育てを支援する政策が出生行動に及ぼす影響について統計的な分析を行った研究(浅子和美(研究代表)他「子育て支援策の効果に関する研究1」(『平成9年度厚生省心身障害研究・少子化についての専門的研究報告書』pp.61-90、1998))、母親の心身の健康や生活の維持・向上という観点から母親の育児を支える周囲の人々・機関の構造をネットワーク分析の手法を用いて明らかにした研究(松田茂樹「ネットワークの中で育児をすることー育児の well-being へのネットワーク構造アプローチの試みー」(『LDI REPORT』113、pp.31-53、2000))などがあるが、まだ緒についたばかりである。本論文は、このような研究の一環として、生涯学習支援の観点から次世代育成支援のあり方についての理論的検討を行うものである。本論文ではその第一段階として、乳幼児を育てる母親（以下、母親）の学習行動に関する一つの仮説を提出することを目的としている。

母親の学習行動を説明する要因としては、学習要求、学習意欲、学習条件（学習方法・学習場所、学習の障害条件などを含む）などが考えられるが、ここでは母親の学習条件のうちの、母親に対する周囲から提供されるさまざまな援助を取り上げて検討を加えたいと思う。なぜなら、母親の学習に対する社会的支援のあり方を考えるためには、まずその第一のステップとして学習に取り組んで母親が周囲から受けている援助について検討しておく必要があるが、これまでの研究では実態の把握にとどまっており²⁾、理論的検討は行われていないためである。

母親の学習行動に影響を及ぼす要因に関する仮説を設定し、その検証が進められれば、

現在行われている次世代育成に関わる生涯学習支援、たとえば、子育て講座や再就職支援セミナー、育児に関する相談に応じる子育てサポーターの養成講座などのあり方を検討する手がかりの一端を得ることができると思われる。

2. 研究方法

上記の検討を行うにあたって、本論文では母親の学習行動に周囲の協力関係が及ぼす影響を捉える枠組みを提出することにする。枠組みは、母親の学習活動の有無³⁾とその母親に対する周囲の協力の状態を捉えようとするものである。以下では、まず、協力関係を捉える観点を明らかにし、それをういた分析枠組みを提出する。

(1) 協力関係を捉える観点

ここでいう協力とは、複数の個人や集団が各々の目標の達成に向かって相互に助け合うことである⁴⁾。ここではそのような複数の個人や集団間の関係を協力関係と呼び、その方向に着目する。また、協力関係の有無を捉えるためには、具体的な表出としての協力をどのように捉えるかということも問題になるため、その観点についてもここであわせて検討しておくこととする。

1) 協力関係の方向

先にも述べたように、協力は相互に助け合うことであるため、協力関係は双方向の関係である。しかし、母親の学習行動を規定する要因の分析にあたっては、特定の個人の目標の達成という観点から、他から母親に対する一方向の関係をのみを捉えておくこととする。具体的には、母親が学習するためにさまざまな援助を提供する個人あるいは集団を協力主体として捉え、その協力主体から母親への一方向の関係を捉える。本論文で取り上げる協力主体の種類は、第1表の通りである。

第1表 協力主体の種類

父 親	実際に当該の子どもを育てている母親の配偶者・パートナー
家 族 ・ 親 族	父親を除く家族や親族。子どもの兄弟姉妹や祖父母、母親や父親の兄弟姉妹など。
友 人 ・ 知 人	母親と個人的なかかわりにある人々。育児サークルやボランティアの友人や知人など。
そ の 他 の 援 助 者	保育所・幼稚園の職員、保育ママ、ベビーシッターなど。
社 会	社会的な観点から人々の生活を支える仕組みをもつ機関。政府、地方自治体、その他の公的機関（たとえば、児童相談所、福祉事務所、保健所）など。

ここではこれらの協力主体を同レベルで捉え、また、子どもの父親の有無といった特定の協力主体の有無を問題としないことにした。母親を取り巻く環境は、子どもの父親や祖父母との同居の有無や友人関係、利用している公的機関などによってさまざまであり、協力主体をそのような違いによって限定してしまうと、一部の母親についてしか検討することができない。しかし、現段階では母親の学習行動を規定する要因解明に関する研究は行

われていないため、まずは母親全体を対象として検討しておくことにしよう。

また、これらの協力主体から母親に対する協力の有無については母親の主観的な判断を問題とする。協力主体が協力しているつもりでも、母親がそのように受け止めていない場合には、協力関係はなく、逆に協力主体に協力の意図がなくても、母親が協力してもらっていると判断すれば、そこには協力関係があると捉えることにする。その理由は母親が行動を選択する時に他からの協力を考慮するとすれば、協力主体が実際にどのような協力を提供しているかということよりも、母親自身が他からの協力の有無を認識しているかどうかということが問題だからである。

2) 協力の種類

次に、協力を捉える観点についてであるが、本論文では、協力を、意識面、情報面、行動面の3つの側面から捉えている。

第一に、ここでいう意識面の協力は、母親の学習に対する協力主体の肯定的な考え方である。たとえば、ある母親が語学サークルに参加したいと考えているときに、子どもの祖父母などがサークルへの参加に肯定的であれば、そうでない場合に比べて、母親は学習に取り組みやすくなるだろう。

第二に、情報面の協力は、母親が学習するために必要としている協力の内容を知っていることである。たとえば、ある母親が通信教育などで資格を取得したいと考え、学習時間を確保するために父親に家事を分担してほしいと考えている場合、父親がそのような希望を知っていれば、実際の協力場面において母親の希望に即した協力行動をとることが期待できるであろう。また、さまざまな事情により希望に即した協力行動がとれなくても、母親の気持ちを察していることは、母親が他の協力を求めることを容易にすると考えられ、このような点で、母親は学習に取り組みやすくなると思われる。

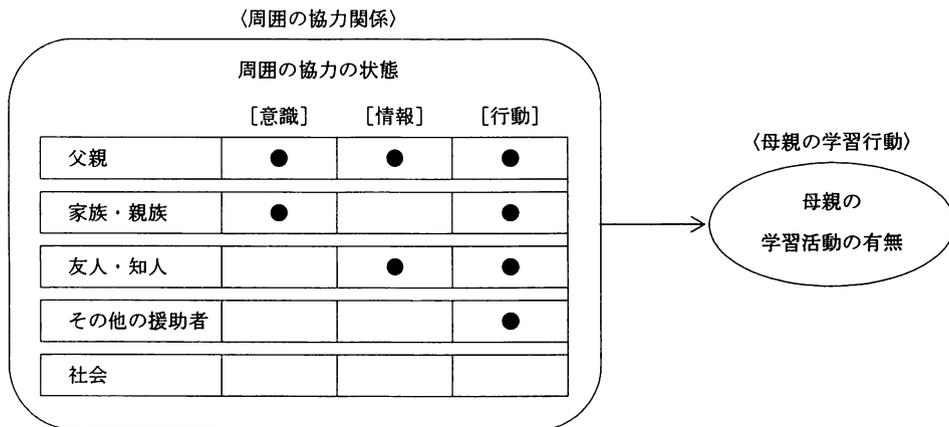
最後に行動面の協力についてであるが、これは母親が学習するために必要な協力が実際に行われていることである。たとえば、何らかの学習活動に取り組みたいと思っている母親にとって、子どもの祖父母が子どもをその間預かってくれることや、子どもと一緒に参加できる世代間交流などのイベントが公民館で開催されることは、学習に取り組むことを容易にしてくれると思われる。

さらに本論文では、協力主体(第1表)から提供されるこれらの協力が3種類すべて揃っている場合に着目している。3つの側面を個別に捉えるのではなく、意識、情報、行動の組としても捉える理由は、協力主体から提供される協力的な行動が母親に対する周囲の肯定的な考え方に裏付けられており、さらに、それらが「母親が協力を必要としている」という情報に基づくものであるとき、母親は協力主体からの協力を受け取りやすくなり、母親自身の行動に影響を及ぼすのではないかと考えたためである。先述のように、わが国ではすでに育児中の親に対する生涯学習支援が行われているが、十分とは言い難い状況にある⁵⁾。このような問題が生じる背景には、現在行われている支援の内容が母親の希望に即していないこと、たとえ母親が求めている支援が行われていても利用しにくいことなどが考えられる。利用を左右する要因の一つとして、母親が利用したいと思う支援が、母親の学習活動への理解に基づいて提供されているかどうかがあると思われる。

(2) 分析枠組みの提出

第1図は、母親の学習行動に周囲の協力関係が及ぼす影響を捉える分析枠組み（および分析例）である。

第1図 母親の学習行動に周囲の協力関係が及ぼす影響を捉える分析枠組み（および分析例）



表中の●は、それぞれ母親が協力を得ていると判断した項である。上の例では、ある母親が、「父親」からは意識面、情報面、行動面の協力を得ており、「家族・親族」からは意識面と行動面、「友人・知人」からは情報面と行動面、「その他の援助者」からは行動面の協力を得ていることを示している。一方、「社会」からはいずれの協力も得ていない。

本論文では、周囲の協力の状態を個々の協力や協力関係の総数から捉える⁶⁾のではなく、協力主体の種類数から検討する。後者の観点つまり、周囲の協力関係が全体的にどれだけの多様性を持つかを捉えるものである。このような観点から周囲の協力の状態を検討する理由としては、多様な協力主体から協力を得ることができれば、母親の学習が広く社会に受け入れられているという実感を母親自身に与え、そのような状況において、母親が学習に取り組みやすくなると考えられるためである。

本論文では、以上の分析枠組みを用いて母親の学習行動に周囲の協力関係が及ぼす影響を検討するが、実証的な検討にあたっては事例として茨城県稲敷郡阿見町を取り上げて質問紙調査（配布回収法）を行った（2002年11月19日）。調査対象は阿見町総合保健福祉会館で実施されている2歳児健康診査に訪れた母親33人（有効回収率100%）である。⁷⁾

分析項目は、①協力の種類（意識、情報、行動）別にみた協力主体の種類数と母親の学習活動の有無、②3種類の協力が揃っている協力主体の種類数と母親の学習活動の有無の2点である。なお、各項目について、周囲の協力の状態と今後の学習希望の有無の関係もみておくこととする⁸⁾。

3. 分析

①協力の種類別にみた協力主体の種類数と母親の学習活動および今後の学習希望の有無の関係

まず、協力の種類別に、協力主体の種類数と母親の学習活動の有無の関係をみることにしよう。意識面の協力についてみると（第2表）、協力主体の種類数と学習活動率には関係

があるとはいえなかった。一方、情報面や行動面では（第3、4表）、協力主体の種類数が多くなれば学習活動を行っている人の比率が高くなる傾向があり、協力主体の種類数と学習活動の有無には関係があるように思われる。なお、今回用いた調査結果では、協力主体の種類数は、情報面では多くて3、行動面では4であった。

今後の学習希望の有無については、協力の種類別にみると、意識面、情報面、行動面（第2～4表）共に協力主体の種類数と今後の学習希望との間には関係があるとはいえなかった。

第2表 協力主体の種類数別にみた母親の学習活動の有無および今後の学習希望の有無【意識面】

実数 (%)

		学習活動の有無		今後の学習希望の有無			合計
		活動あり	活動なし	希望あり	希望なし	わからない	
協力主体の種類数	0	0(0.0)	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	2(100.0)
	1	3(37.5)	5(62.5)	4(50.0)	1(12.5)	3(37.5)	8(100.0)
	2	2(28.6)	5(71.4)	5(71.4)	1(14.3)	1(14.3)	7(100.0)
	3	5(62.5)	3(37.5)	5(62.5)	2(25.0)	1(12.5)	8(100.0)
	4	2(33.3)	4(66.7)	3(50.0)	1(16.7)	2(33.3)	6(100.0)
	5	2(100.0)	0(0.0)	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)

第3表 協力主体の種類数別にみた母親の学習活動の有無および今後の学習希望の有無【情報面】

実数 (%)

		学習活動の有無		今後の学習希望の有無			合計
		活動あり	活動なし	希望あり	希望なし	わからない	
協力主体の種類数	0	0(0.0)	3(100.0)	1(33.3)	0(0.0)	2(66.7)	3(100.0)
	1	0(0.0)	9(100.0)	2(22.2)	3(33.3)	4(44.4)	9(100.0)
	2	6(46.2)	7(53.8)	8(61.5)	2(15.4)	3(23.1)	13(100.0)
	3	8(100.0)	0(0.0)	8(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(100.0)
	4	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—

*表中の「—」は、該当がなかったことを示している。以下、同様。

第4表 協力主体の種類数別にみた母親の学習活動の有無および今後の学習希望の有無【行動面】

実数 (%)

		学習活動の有無		今後の学習希望の有無			合計
		活動あり	活動なし	希望あり	希望なし	わからない	
協力主体の種類数	0	1(25.0)	3(75.0)	2(50.0)	1(25.0)	1(25.0)	4(100.0)
	1	2(28.6)	5(71.4)	3(42.9)	2(28.6)	2(28.6)	7(100.0)
	2	6(37.5)	10(62.5)	10(62.5)	2(12.5)	4(25.0)	16(100.0)
	3	4(80.0)	1(20.0)	3(60.0)	0(0.0)	2(40.0)	5(100.0)
	4	1(100.0)	0(0.0)	1(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)
	5	—	—	—	—	—	—

②3 種類の協力が揃っている協力主体の種類数と母親の学習活動および今後の希望の有無の関係

次に、意識面、情報面、行動面の協力が3種類揃っている協力主体の種類数と母親の学習活動の有無の関係をみると、第5表のように、学習活動の有無で支援主体の種類数が0と1ではその比率がほとんど変わりが無いが、2で50%を超え、3で100%となっている。しかし今後の学習希望では、学習活動のような傾向は見られない。

第5表 3種類の協力が揃っている協力主体の種類数別にみた母親の学習活動の有無および今後の学習希望の有無

		学習活動の有無		今後の学習希望の有無			合計
		活動あり	活動なし	希望あり	希望なし	わからない	
協力主体の種類数	0	2(28.6)	5(71.4)	4(57.1)	1(14.3)	2(28.6)	7(100.0)
	1	3(25.0)	9(75.0)	5(41.7)	2(16.7)	5(41.7)	12(100.0)
	2	6(54.5)	5(45.5)	7(63.6)	2(18.2)	2(18.2)	11(100.0)
	3	3(100.0)	0(0.0)	3(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)
	4	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—

今回は分析対象としたサンプル数が少なく、個々の比率を用いて考察することは難しいが、全体的な傾向から、乳幼児を育てる母親の学習活動の有無には、周囲の協力の状態が影響を及ぼしているという仮説を提出することができるであろう。

4. 考察

ここで、この分析結果をもとに、母親に対する生涯学習支援のあり方について若干の検討を加えることとする。

分析結果から、意識面、情報面、行動面の協力が3種類揃っている協力主体の種類数が2以上である場合に、学習活動に取り組む母親が半数を超えている。調査の結果からは両者の因果関係を捉えることはできないが、母親が学習するための環境整備という点からは、3種類の協力をを行う協力主体の種類を多く持つことができるような支援を考えていけばよいと思われる。

今回手がかりとした調査の結果では、母親は意識面、情報面、行動面の協力のいずれも「父親」や「家族・親族」から得ている場合が多くなっている⁹⁾。このような実態からいえば、3つの協力が揃っている協力主体をさらに増やすためには、「友人・知人」、「その他の援助者」、「社会」から得る必要がある。生涯学習支援の観点からいえば、次のような支援が考えられる。たとえば「社会」からの協力については、現在、各地で行われているさまざまな生涯学習支援事業を行動面の協力と捉えれば、それらを母親の求めるものにしていくと同時に、意識面、情報面の協力についてもあわせて考える必要があるだろう。具体的には、市役所の掲示板で母親の学習活動の様子を紹介したり、育児サークルのメンバーを募集するポスターを掲示したりすることや、子どもの健康診査などで多くの母親が訪れる保健所に学習相談コーナーを設置することで、「社会」が母親の学習活動に肯定的である

ことや、母親の求めている協力に関する情報を探っていることを母親に実感してもらうことが考えられる。このような試みはこれまでも行われてきたかもしれないが、今後はさらに積極的に進めていくとよいと思われる。

ただし、これはあくまで今回の調査結果をもとにした考察したに過ぎない。今後は母親が学習を行う際に必要な、意識面、情報面、行動面の協力の具体的な内容を明らかにした上で、母親に対する生涯学習支援のあり方が検討されなければならないであろう。

5. 今後の課題

今後の課題としては、上記のような協力の内容を明らかにすることの他に、以下の2点が上げられる。

第一に、分析枠組みの精緻化である。今回は、母親が学習活動をすることに周囲の協力の状態の捉え方が影響を及ぼしていないかに着目した。しかし、今回の調査結果から、母親自身の学習に関する考え方が、母親の学習活動の有無に何らかの影響を及ぼす可能性がみられたためである¹⁰⁾。したがって、母親の学習活動に関する母親自身の考え方も変数として取り入れ、今回提出した枠組みのさらなる検討を行う必要がある。

第二に、精緻化した枠組みを用いて、今回提出した仮説を検証することである。今回は、1町の特定の11月の2歳児健康診査に来た母親に対して行った調査結果を分析したに過ぎないため、さらに他の市町村や年間を通した調査を行い、実証研究によって今回の仮説を検討しなければならないであろう。他にも課題はあるだろうが、少なくともこれらの課題は急ぎ取り組む必要があると思われる。

注記・引用文献

- 1) 次世代育成支援施策の在り方に関する研究会「社会連帯による次世代育成支援に向けて」(厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/syousika/030807-1a.html> 2004年7月9日参照)。2003年には少子化社会対策基本法や次世代育成支援対策推進法が制定されたが、これらは次世代育成のための社会的支援の充実・強化への第一歩として捉えられている。なお、社会的支援(ソーシャル・サポート)についてはさまざまな理論がさまざまな規定の仕方をしているが、特に明確な定義はなく、個人を取り巻く家族・親族、友人、専門家、公的機関などからの個人に対するさまざまな援助を意味するものとして広く用いられている(中島義明他編『心理学辞典』有斐閣、1999、p.541(「ソーシャル・サポート」(浦光博)の項)などを参照)。
- 2) たとえば、牧野カツコ「乳幼児をもつ母親の学習活動への参加と育児不安」(『家庭教育研究所紀要』9、pp.1-13、1987)、『「子育て中の女性の意識と学習支援のあり方に関する調査」報告書』(東京都教育庁生涯学習部振興計画課、2001)など。
- 3) 学習活動の有無は、学習行動を捉える一つの観点である。本論文では、学習行動を学習性のある行動という広い意味で用いており、それはたとえば、学習時間、学習場所、学習内容などの観点から捉えることができる。ここでは母親が子どもを育てながら学習に取り組めるかどうかを問題としているため、学習活動の有無という観点から母親の学習行動を捉えることにした。

生涯学習での学習活動とは、考え方や行動様式の変容を図るための知識・技術を取り込む活動である（山本恒夫「生涯学習の意義」（山本恒夫他編『生涯学習の設計』実務教育出版、1995、pp.3-25）p.5）。このような活動にはさまざまなものがあるが、それへの支援を考える場合、一定の範囲を決める必要がある（同上 pp.16-21）。しかし、そのような範囲を定める明確な基準はない。そのため、本論文では学習活動の範囲を「趣味、教養、文化、スポーツのことなどで、何かを学んだり、身につけたり、腕をみがいたりしていること（講座・教室に参加したり、展覧会、演奏会、講演会などに行ったりするだけでなく、先生やコーチについたり、本を読んだり、テレビやラジオを見たり聞いたりして学んだことを含む）」と設定した。学習活動の範囲については、急ぎ検討すべき課題の一つである。

4) なお、相互に助け合う関係という意味を含める用法もある。『新社会学辞典』有斐閣、1993、p.300（「協同」cooperation（森博）の項）、『心理学辞典』（有斐閣、1999、p.192（「協力／競争」cooperation／competition（土肥聡明）の項））などを参照。

5) 拙稿「乳幼児を育てる母親の生涯学習活動と周囲の協力の関係」筑波大学大学院博士課程中間評価論文、2003を参照。

6) このような観点から周囲の協力の状態を捉えた研究としては、たとえば、『「核家族の育児援助に関する調査研究」報告書』（増田光吉（研究代表）他、兵庫県家庭問題研究所、1987）、前掲「ネットワークの中で育児をすること－育児の well-being へのネットワーク構造アプローチの試み－」などがある。

7) 調査の概要については、巻末の〈付録〉を参照。

8) 学習行動を規定する要因としては、学習意欲や自由時間、健康問題、経済条件などさまざまなものが考えられるが、その中でも学習意欲は学習行動を規定する重要な要因であることはいうまでもないであろう。本論文では、学習行動を規定する要因として周囲の協力の状態を取り上げているが、もし仮に、周囲の協力の状態と学習意欲に何らかの関係があれば、母親の学習行動を説明する要因として、周囲の協力の状態だけでなく学習意欲をも取り上げる必要がある。したがって、今回の分析では周囲の協力関係と学習意欲（今後の学習希望の有無）の関係も検討している。

9) 〈付録〉表 8-10 を参照。

10) 当該調査は非常に限られた意識を捉えたものに過ぎないが（〈付録〉表 11-13）、調査結果からは「育児中の母親には、自分の趣味や学習に取り組むための時間が必要である」と考えており、さらに「いろいろ工夫すれば、育児中の母親でも自分の趣味や学習に取り組める」と考えている条件の下で、母親の学習活動が行われているといえるようである。

〈付録〉「乳幼児を育てる母親への生涯学習支援に関する実態調査」の概要（抜粋）

(1) 調査地の概要

阿見町は、茨城県の南部に位置する東西9キロメートル、南北11キロメートル、総面積64.97平方キロメートル（湖面を除く）の町で、2002（平成14）年12月1日現在の人口は46,659人（男23,299人、女23,360人）、世帯数は16,707戸である（阿見町 ホームページ <http://business2.plala.or.jp/townami/>、2002年11月29日現在、『平成10年度 阿見町の教育』阿見町教育委員会、「社協あみ」No.50 阿見町社会福祉協議会 阿見町ボランティア推進協議会 2002年12月7日等を参照）。

(2) 回答者のプロフィール

表1 子どもの人数 実数 (%)

1人	2人	3人	無記入	合計
10 (30.3)	14 (42.4)	7 (21.2)	2 (6.1)	33 (100.0)

表2 末子の年齢 実数 (%)

0歳	1歳	2歳	無記入	合計
3 (9.1)	3 (9.1)	25 (75.8)	2 (6.1)	33 (100.0)

表3 保育所や幼稚園への通園状況（健康診査対象児） 実数 (%)

通っている	通っていない	無記入	合計
6 (18.2)	25 (75.8)	2 (6.1)	33 (100.0)

表4 就労の有無 実数 (%)

専業主婦	パート	フルタイム	自営業	無記入	合計
16 (48.5)	7 (21.2)	6 (18.2)	2 (6.1)	2 (6.1)	33 (100.0)

表5 世帯の種類 実数 (%)

核家族	核家族以外	その他*	無記入	合計
21 (63.6)	8 (24.2)	2 (6.1)	2 (6.1)	33 (100.0)

* : 子どもとの同居が確認できない母親

(3) 調査結果

〈母親の学習活動の実態〉

表6 学習活動の有無 実数 (%)

活動あり	活動なし	合計
14 (42.4)	19 (57.6)	33 (100.0)

表7 今後の学習希望の有無 実数 (%)

希望あり	希望なし	わからない	合計
19 (57.6)	5 (15.2)	9 (27.3)	33 (100.0)

〈母親の学習活動に対する周囲の協力の実態〉

表8 協力主体の種類別にみた意識面の協力の状態 実数 (%)

	協力あり	やや協力あり	どちらとも いえない	やや協力なし	協力なし	無記入	合計
父親	14(42.4)	12(36.4)	5(15.2)	1(3.0)	0(0.0)	1(3.0)	33(100.0)
家族・親族	16(48.5)	6(18.2)	8(24.2)	1(3.0)	2(6.1)	0(0.0)	33(100.0)
友人・知人	7(21.2)	9(27.3)	6(18.2)	4(12.1)	2(6.1)	5(15.2)	33(100.0)
その他の援助者	3(9.1)	10(30.3)	9(27.3)	1(3.0)	4(12.1)	6(18.2)	33(100.0)
社会	0(0.0)	3(9.1)	11(33.3)	7(21.2)	6(18.2)	6(18.2)	33(100.0)

表9 協力主体の種類別にみた情報面の協力の状態

実数 (%)

	協力あり	協力なし	合計
父親	28 (84.8)	5 (15.2)	33 (100.0)
家族・親族	19 (57.6)	14 (42.4)	33 (100.0)
友人・知人	9 (27.3)	24 (72.7)	33 (100.0)
その他の援助者	3 (9.1)	30 (90.9)	33 (100.0)
社会	0 (0.0)	33 (100.0)	33 (100.0)

表10 協力主体の種類別にみた行動面の協力の状態

実数 (%)

	協力あり	協力なし	合計
父親	26 (78.8)	7 (21.2)	33 (100.0)
家族・親族	19 (57.6)	14 (42.4)	33 (100.0)
友人・知人	7 (21.2)	26 (78.8)	33 (100.0)
その他の援助者	6 (18.2)	27 (81.8)	33 (100.0)
社会	0 (0.0)	33 (100.0)	33 (100.0)

〈母親自身の学習に関する考え方〉

表11 「育児中の母親には、自分の趣味や学習に取り組むための時間が必要である」

実数 (%)

そう思う	やや思う	どちらとも いえない	やや思わない	そう思わない	合計
20 (60.6)	5 (15.2)	7 (21.2)	1 (3.0)	0 (0.0)	33 (100.0)

表12 「自分の趣味や学習のために、子どもの世話を誰かに頼むことは後ろめたく感じる」

実数 (%)

そう思う	やや思う	どちらとも いえない	やや思わない	そう思わない	合計
9 (27.3)	14 (42.4)	2 (6.1)	6 (18.2)	2 (6.1)	33 (100.0)

表13 「いろいろ工夫すれば、育児中の母親でも自分の趣味や学習に取り組める」

実数 (%)

そう思う	やや思う	どちらとも いえない	やや思わない	そう思わない	合計
11 (33.3)	14 (42.4)	4 (12.1)	4 (12.1)	0 (0.0)	33 (100.0)